

佐賀市 8 歴史探訪

さが はん しゅ ご ざ の ま お い の ま 佐賀藩主の御座間(御居間)

天保年間(てんぽう)に再建された佐賀城本丸の建物群は、明治7(1874)年の佐賀の役でそのほとんどを焼失してしまったようにいわれることがありますが、そうではなかったようです。

戦災を免れた本丸の建物群は、明治7年以降も役所や学校に使われ、それが老朽化すると新しい建物を建てるために、だんだんと解体されていったというのが実際のようなようです。

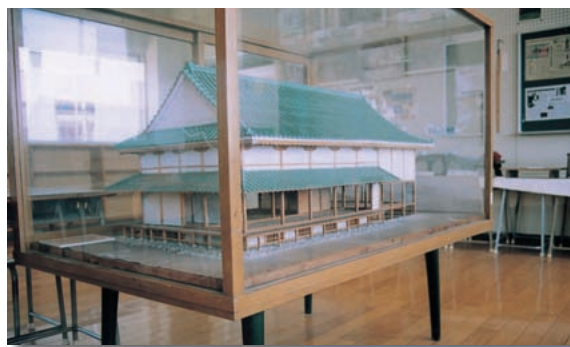
この本丸建物群の中で一番長く現地に残っていたものが、藩主の居間である「御座間(ござのま)」でした。この建物は昭和32(1957)年まで、赤松小学校で利用されていましたが、新校舎建築により、南水ヶ江の大木公園に移転され、南水会館として活用されることになりました。

先頃、この南水会館の調査が建築の専門家によって実施されました。それによると、大規模な改変がなされているが基本的な木組みはそのままであり、佐賀城本丸御殿の「御座間」に復元が可能という調査結果が得られました。また、天井裏の材木に「御座間」という墨書きの文字も発見されました。

現在、佐賀城本丸跡に移築復元され、県立佐賀城本丸歴史館の一部として、来館者に公開活用されています。



▲旧赤松小学校にあったころの御座間



▲御座間の模型(赤松小学校保管)



▲移築復元前の南水会館(旧赤松小学校から移築された御座間)

一口メモ

- 赤松小学校にあった御座間が南水ヶ江に移転されることになったとき、同校の先生方によって20分の1の縮尺模型が制作されました。これは今も赤松小学校に保管されていて、床の間や建具など文献資料だけでは明らかにできない部分を知ることができるものです。
- 南水会館の玄関先右手に「寛保三年癸亥三月良辰御築謹制之」と刻まれた石材があります。本丸の南西隅にあった「櫓台(やぐらだい)」修復の際に刻まれたものと考えられます。



市営バス龍校前下車 徒歩5分